

インテリジェント ウェイブ

クレカ不正対策 高度化

共同利用で知見集約

AI活用し検知率向上

インテリジェント ウェイブ (IWI) は、クレジットカードの不正利用対策を高度化していく。複数のカード会社で、不正対策ソリューションを共同利用し、各社の知見や情報を集約することにも、システムの運用負荷を軽減する。さらに、人工知能 (AI) を使ったスコアリングによる検知率の向上も図る。

同社は、大手を中心に、1990年代後半にカード会社とカードの不正利用被害が増加し始めたのを受け、不正検知システム「AC物」など、不正の可能

性が高いと思われるルールを設定して、それに合致した取引を自動的に検知する。オプションとして、過去の不正のパターンをもとに、不正の可能性を数値化して抽出するスコアリング機能も搭載。99年の提供から、大手を中心に約20社が採用している。ただ、カードの不正利用は年々拡大しており、今後も少額決済が増えていけば、不正対策に費やす負担はますます重くなる。そこで、2017年に共同利用型の「IFINDS (アイファインズ)」の提供を始めた。システムの運用や保守などはIWIが担い、負荷を軽減。ユーザー会を組織して、不正に関する知見や情報を共有できる体制を整えることで、不正対策を底上げする。スコアリング機能も、新たにAIを導入して精度を高める。不正対策業務の属人化を

正に関する知見や情報を共有できる体制を整えることで、不正対策を底上げする。スコアリング機能も、新たにAIを導入して精度を高める。不正対策業務の属人化を

カード会社だけでなく、本体でクレジットカードを発行する銀行でも不正対策の高度化は喫緊の課題となっており、注目されている。